

# 「くらし部会」 活動報告書

平成 30 年度（2018年度）  
明石市地域自立支援協議会

( 白 紙 )

# 平成30年度（2018年度）「くらし部会」活動報告書

## 目 次

1. くらし部会本会議 ..... 1
  - ・委員構成、活動実績
  
2. ワーキング活動
  - (1) ハートフルあかし
    - ・コアメンバー構成、活動実績 ..... 2
    - ・活動資料集（市民向けメンタルヘルス講座） ..... 3 ～ 10
    - ・活動資料集（障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修） ..... 12 ～ 16
  
  - (2) ヘルパーのつどい
    - ・コアメンバー構成、活動実績 ..... 17
    - ・活動資料集 ..... 18 ～ 20
  
  - (3) すまいの会
    - ・コアメンバー構成、活動実績 ..... 21
    - ・活動資料集（課題抽出シート） ..... 22
    - ・活動資料集（地域移行に関するアンケート調査案） ..... 23 ～ 28
  
  - (4) 生活介護事業者連絡会
    - ・コアメンバー構成、活動実績 ..... 29
    - ・活動資料集（課題抽出） ..... 30
    - ・活動資料集（作業療法士による介入報告） ..... 32 ～ 42

## くらし部会

### 活動目的

「明石市第4次障害者計画」における優先課題の解決をめざし、「明石市障害福祉計画（第4期）における計画の基本方向等を踏まえ、『住み慣れた街での暮らしをいかに保障していくか』をスローガンに具体的な活動を進めます。

### 活動方針

ワーキング活動を「主たる支援対象者を同じくする者」や「同種・近種のサービスを提供する者が集える形へ再編し、「特定領域における課題の抽出と意見集約」を進めていきます。

### 委員

役職	所属	氏名
部会長	社会福祉法人明桜会 相談支援事業所オアシス	鳥居 健一
副部会長	特定非営利法人きぼうの空 障害福祉サービス事業所にじの空	山崎 信吾
委員	社会福祉法人ゆほびか 障害者地域生活支援センターほほえみ	野口 忠男
委員	社会福祉法人博由社 障害者支援施設博由園	賀部 大輔
委員	社会福祉法人明桜会 障害者支援施設大地の家	宮崎 泰生
委員	特定非営利活動法人こぐまくらぶ	佐々木 淳子
委員	株式会社ユーアイ ファミリーケア友愛	小林 律子
委員	社会福祉法人明石市社会福祉協議会 地域福祉推進課地域福祉係	上月 眞紀
委員	明石市視覚障害者福祉協会	浅生 晴彦
委員	明石市福祉局 生活支援室 障害福祉課	本多 伊佐子
委員	社会福祉法人明石市社会福祉協議会 基幹相談支援センター	足立 麻子

### 活動実績

日時	内容
7月20日（金）	第1回本会議
2月4日（月）	第2回本会議

## ワーキング① 「ハートふるあかし」

設置目的（明石市第4次障害者計画を参照）

### 3-4 精神保健医療や難病対策の充実

- ・精神障害のある人に対するサービスの充実を図り、退院促進や地域移行支援、地域定着支援、就労支援など医療的ケアと福祉的ケアの両面において支援の充実に努めます。
- ・心の健康づくりに関する理解が市民に深まるよう、広報・啓発に努めます。

### 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実

#### (8) サービス事業所への支援

- ・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。

### 具体的活動

- ・障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修の企画運営
- ・精神障害のある人への相談支援業務等を通じて得られた課題の抽出と意見集約

### コアメンバー

健康推進課 あかし保健所	塩入 雄佑
相談支援事業所 ほほえみ	野口 忠男
関西青少年サナトリウム	佐川 芳郎
明石土山病院	榎本 純子
明石こころのホスピタル	土井 憲太郎
かもめクリニック	蒔野 成明
サポートセンター西明石	鈴木 晃
訪問看護ステーションミント	池田 真奈
兵庫県立大学（精神看護）	川田 美和

### 活動実績

日時	内容
6月28日（木）	平成29年度活動振り返り及び平成30年度活動内容検討
7月30日（月）	市民向けメンタルヘルス講座素案検討
8月28日（火）	市民向けメンタルヘルス講座素案検討
10月4日（木）	市民向けメンタルヘルス講座運営準備
10月24日（水）	市民向けメンタルヘルス講座
11月13日（火）	障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修素案検討
12月11日（火）	障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修素案検討
1月29日（火）	障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修運営準備
2月20日（水）	障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修

# 食べてうつぬけ

～鉄欠乏女子（テケジョ）・子ども（テケコ）を救え！～

10月24日

水

14:00～16:00  
(受付 13:30～)

「市民ホール」らぽす5階 明石市本町1丁目1-32



## 奥平智之先生

医療法人山口病院 精神科部長  
日本栄養精神医学研究会 会長



### 【奥平智之（おくだいらともゆき）先生 プロフィール】

精神科専門医。漢方専門医。日本大学医学部卒業後、日本大学医学部精神医学系精神医学分野に入局。同大学医学部附属板橋病院、東京都立広尾病院神経科を経て、埼玉県川越市にある山口病院に勤務。

2016年より日本栄養精神医学研究会を創設。著書に、『マンガでわかる ココロの不調回復 食べてうつぬけ～鉄欠乏女子(テケジョ)を救え！～』（主婦の友社）など。

「メンタルヘルスは食事から」をモットーに、一般的な精神科診療に加え、個人の体質や病態に合わせ、食事や栄養学的治療、漢方治療を取り入れた診療を行っている。また、講演や学会、著書などを通じ、メンタルヘルスにおける食事や栄養の大切さを啓蒙している。

特に深刻なのは女性や子どもの鉄欠乏の問題であるとし、「貧血がない鉄欠乏状態」は血液検査でヘモグロビン値が正常であるために見逃されているのが実情。しかし、鉄欠乏に伴う心身の不調や美容で悩んでいる人は多く、胎児の中枢神経系の発達などにも鉄が必須であるため、女性の鉄欠乏状態は次世代の子どもたちの心身の不調にもつながる可能性がある。疲れやすさ、注意散漫、眠りが浅い、イライラ、不安、憂うつ、髪の毛が抜ける、肌の乾燥、シミやアザ、学習能力の低下など……。鉄欠乏女子を“テケジョ”、鉄欠乏の子どもたちを“テケコ”と名付け、注意喚起をしている。

FAX：078-924-9134（※送信票不要）

平成30年度 市民向けメンタルヘルス講座

## 参加申込書

申し込み日： 月 日

お名前	
連絡先 (電話番号)	
所属先 ※ある場合のみ	
必要とされる 配慮等	手話・要約筆記・その他 ( )

◇申込期限 平成30年10月19日（金）

○申し込みは先着順（定員200名）となります。

定員に達し次第、申し込みを締め切らせていただきます。

○市民ホールには専用駐車場がございません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【会場案内図】 JR・山陽電車 明石駅より徒歩約5分



【お問い合わせ・送信先】

明石市基幹相談支援センター（担当：足立・後藤）

（社会福祉法人 明石市社会福祉協議会）

明石市貴崎1丁目5番13号

（明石市立総合福祉センター内）

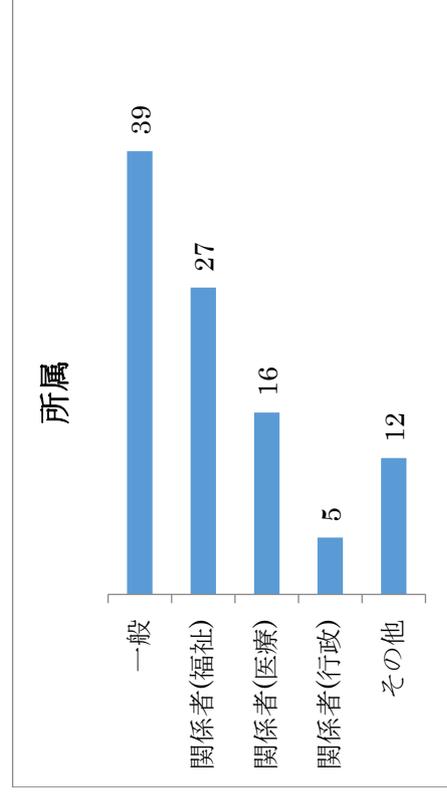
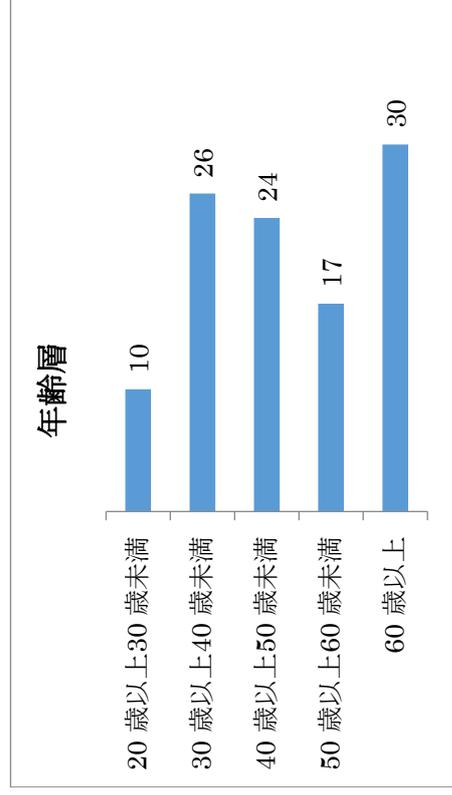
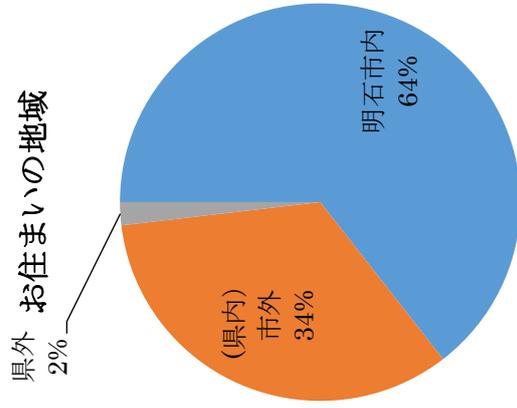
電話：078-924-9155 FAX：078-924-9134

( 白 紙 )

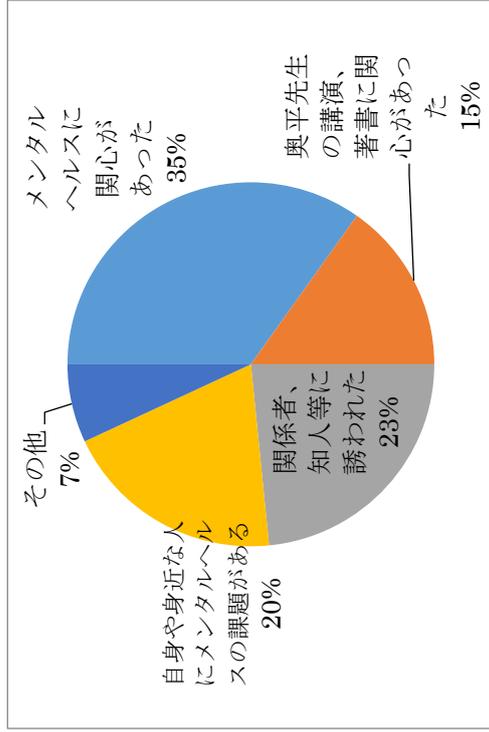
# ハートフルあかし 2018 市民向けメンタルヘルス講座 アンケート集計結果

N=107

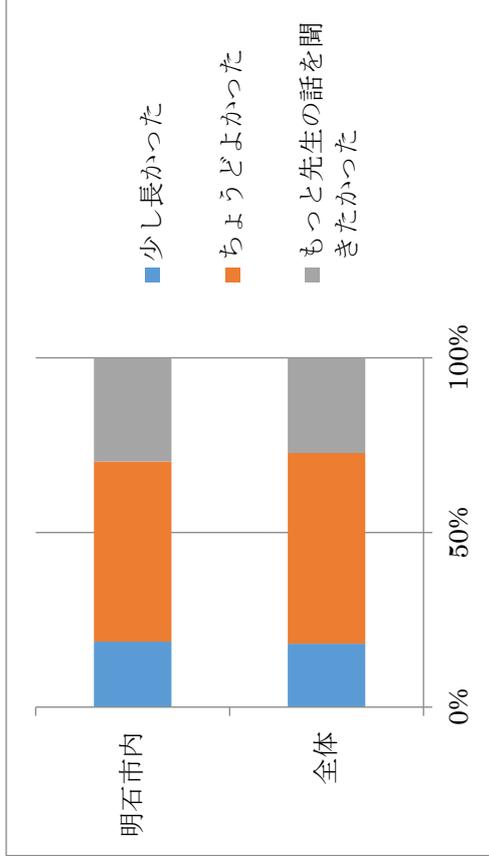
## 【基本属性】



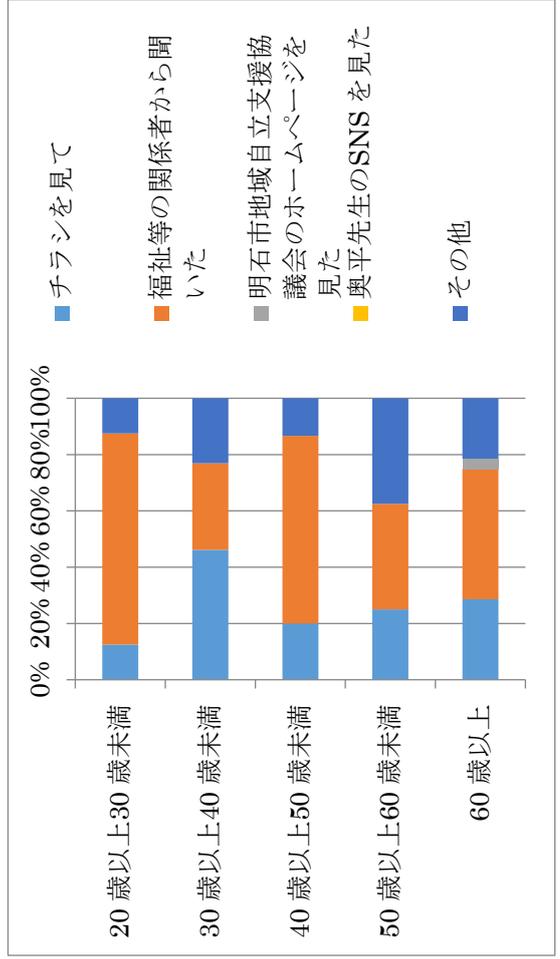
【参加動機】



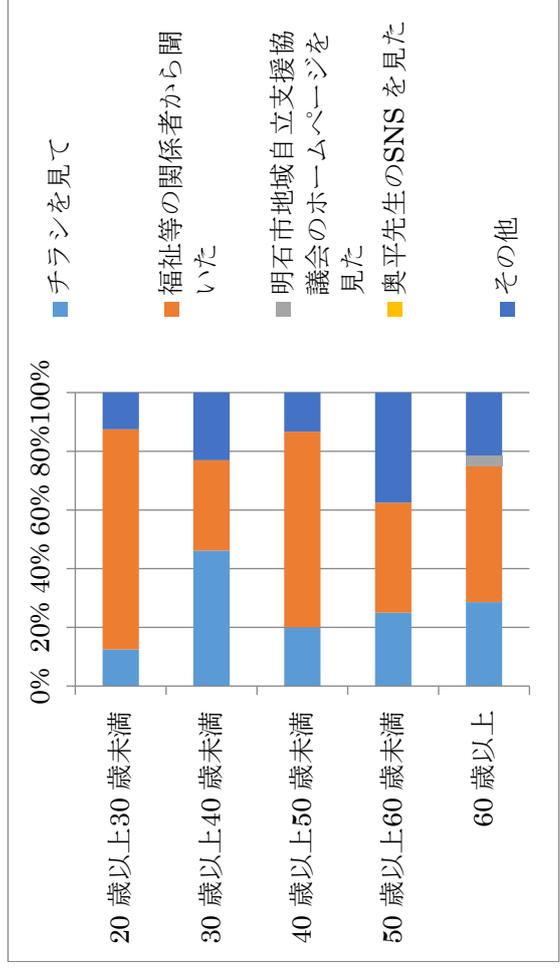
【満足度（講座時間）】



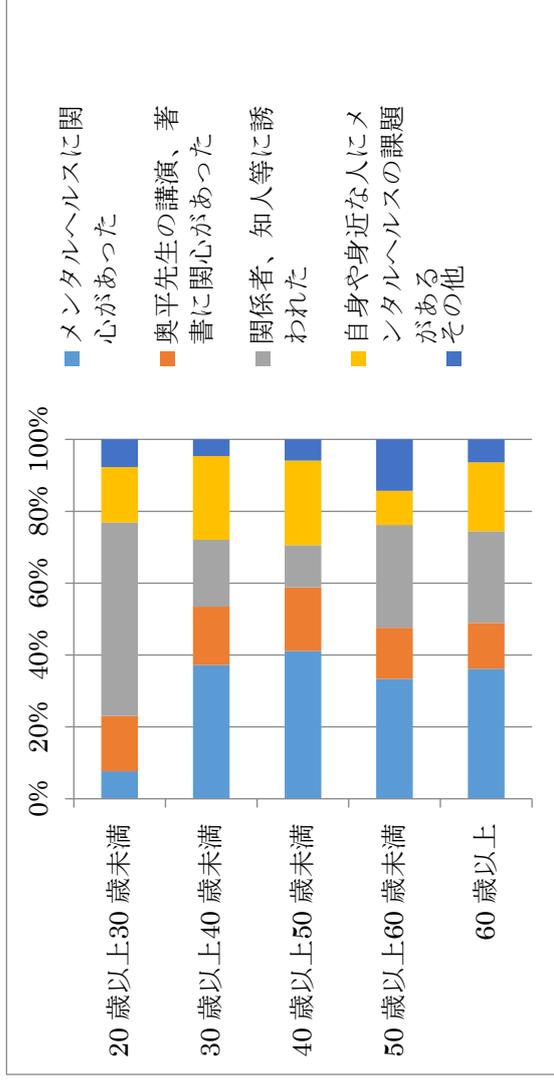
【認知経路】（全体）



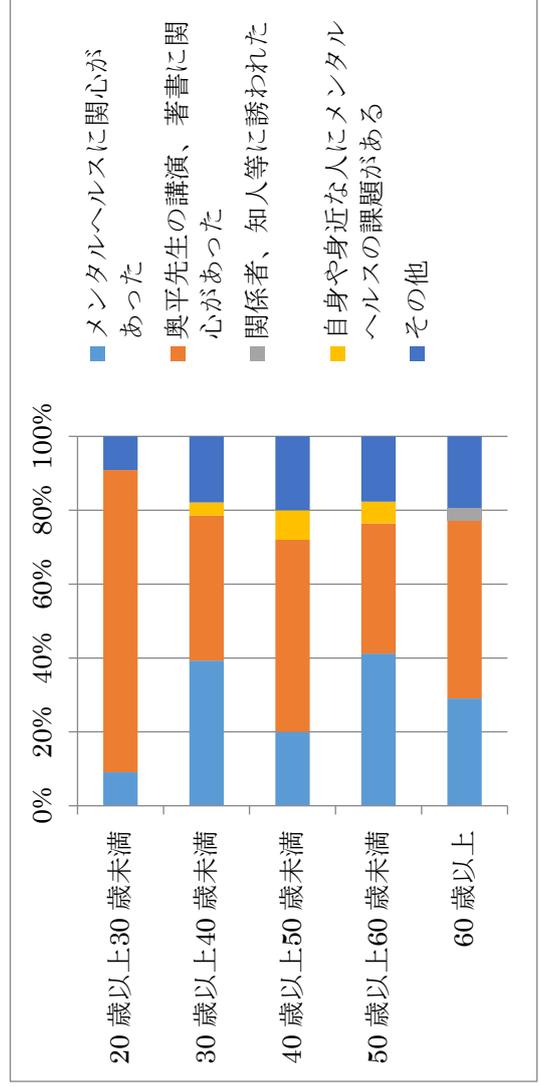
【認知経路】（明石市）



【参加動機】（全体）



【参加動機】（明石市）



## 平成30年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 レポート Vol.30 平成30年11月28日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎 1 丁目 5 番 13 号（明石市立総合福祉センター 1 階）

電話番号 078-924-9155 ファクシミリ 078-923-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

くらし部会ワーキンググループ「ハートフルあかし」では、平成26年度より「障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修」を開催し、精神保健福祉に関する正しい知識と適切な支援について皆様と共に学んで参りました。

今年度は、市民の皆様にもメンタルヘルスについて学んでいただく機会として市民向けメンタルヘルスヘルス講座を企画。10月24日に市民ホールにて、埼玉県精神科病院 山口病院の精神科部長である奥平智之先生をお招きし、「食べてうつぬけ～鉄欠乏女子（テケコ）・こども（テケコ）を救え～！」と題した講演会を開催致しました。当日は市民の方だけではなく、医療、福祉関係の方々や当事者の方など、133名の参加がありました。当日の講演内容を本ワーキングメンバーであり、訪問看護ステーションミントの池田真奈さんにご報告いただきます。



奥平 智之先生

テケジョ  
鉄欠乏  
女子  
を救え!

著書「食べてうつぬけ」を出版されている奥平先生が、冒頭で「今日はこの言葉（テケジョ・テケコ）を覚えて帰ってください。」と言われた通り、主には鉄分が不足する事による、こころとからだの不調についてのお話でした。鉄が不足する事でうつの様な症状が出たり、統合失調症の幻聴などにも影響する事を知り、驚きました。他にも、発達障害と思われる状態が、鉄を補うことで

問題がなくなった事例などのお話もあり、様々な不調に鉄欠乏が影響している事を知りました。

その鉄欠乏は内科の一般的な検査だけではわからないので、フェリチンを調べる事。フェリチンは例えていうと、通帳に貯蓄しているお金の様なもので、ヘモグロビンは財布の中のお金。財布にはお金があっても、実は通帳は空っぽで体全体でみると鉄が足りていない事がある。しかも、生理がある女性、出産を体験している女性の殆どは鉄欠乏状態だとのお話でした。先生は採血をしなく

ても自分でチェックできる方法など、事例を交えながらとても分かり易く説明してくださいました。



日頃の食事を  
見直して  
心身共に健康に！

妊娠時期の胎児の発達にも鉄が大きく影響しており、先生が「子供たちを救いたいと思った。それにはまずお母さんを救わないと、そう思って今は産婦人科医にもこの話をして、救える患者さんが沢山いますよと啓発している。」と言われていたのがとても印象的でした。先生のお話を聞いて、お薬以外にも食事を見直したり、サプリメントを利用したり、こころとからだのために自分でできる事があるんだと嬉しくなりました。早速自分のフェリチンを調べてみましたが、なんと 11ng/ml [目標 50ng/ml]、ヘモグロビンは正常値でした。この講演会の機会がなければ気が付かなかったことです。私と同じくこの講演会に参加された皆さま、その周りの方々に先生の想いが伝わり、一人でも多くの不調に悩むテケジョ・テケコさんが救われる事を願っています。地元明石でこのような貴重な講演を聴く機会を頂いたことに感謝しています。



## 受講者の声



- ・とてもくわしくお話していただきありがとうございます。今後の食生活に活かしていきたいです。
- ・鉄がいかに大切か、食事が大切か、家族・友人に伝えたい。
- ・子ども、妊婦など自分にとって気になることが多く、参考になりました。
- ・自分の日常生活にも参考になり、また精神疾患の方へのアドバイスも増えて、とても勉強になりました。
- ・孫が登校できない状態が続いていましたが、エネルギーがダウンしていたのだと思い直しました。
- ・鉄欠乏について自分でも調べていたが、その事を再確認し、さらに深く知れて本当に良かった。こんな素晴らしい講演を無料で聞けるのはお得すぎる。
- ・自分にあてはまるどころがあり勉強になった。
- ・第2弾を企画してほしい。具体的な献立などをおしえてもらえるとありがたい。



## 平成30年度 障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修 開催案内

日 時：平成31年2月20日（水）

場 所：明石市立市民会館 第1・第2会議室

内 容：精神疾患の基礎理解、当事者体験談など

詳細・申込みは平成31年1月初旬にご案内致します。

( 白 紙 )

障福第 2055号  
平成30年12月26日

明石地域自立支援協議会  
くらし部会長 鳥居健一 様

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課長



精神障害者支援体制加算における「精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修」について

平成30年12月19日付で協議のあった件について、下記研修を「精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修」として認めることとします。

なお、研修会終了後速やかに、別紙により実施報告書の提出をお願いいたします。

記

- 1 研修名：平成30年度障害福祉サービス等従事者向け  
精神保健福祉研修
- 2 日時：平成31年2月20日（水）
- 3 主催：明石市地域自立支援協議会くらし部会  
WG「ハートフルあかし」
- 4 内容：別添「平成30年度 障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修の実施企画について」のとおり

〔問い合わせ先〕

健康福祉部障害福祉局障害福祉課  
精神障害福祉班 永田

〒650-8567

神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL：078-341-7711、FAX：078-362-3911

## 平成 30 年度 障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修

平成26年度より開催しております、「障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修」を今年度も開催致します。

この研修は、障害福祉サービス事業所において、精神に障がいのある利用者を支援する上で必要な基本的な姿勢、知識、情報を獲得して頂く機会となっております。

研修の詳細につきましては、下記及び別紙の通りとなっております。ご多忙中とは存じますが、みなさまのご参加をお待ちしております。

日 時	平成31年2月20日(水) 10:30~16:45 (受付 10:00~)
会 場	明石市民会館会議室 1 (明石市中崎 1 丁目 3-1 )
対 象	明石市地域自立支援協議会「連絡会 ML」に参加している障害福祉サービス等の従事者
定 員	50 名
参加費	無料
主 催	明石市地域自立支援協議会くらし部会 WG「ハートふるあかし」
後 援	障害者等相談支援コーディネート事業(東播磨圏域)
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先着順とさせていただきます。定員を超えた場合はお断りさせていただきますことがあります。</li> <li>・会場駐車場が少ないため、お車でお越しの方は、乗り合わせてお越し下さい。</li> <li>・本研修は、精神障害者支援体制加算における「精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修」に該当します。</li> </ul>

### 【プログラム】

時間	プログラム	講師等
10:00	受付開始	
10:30~ 12:00	「当事者理解」 ~わたしたちの元気な生き方~	池田真奈(看護師・訪問看護ステーションミント) 甲斐英美(PSW・サポートセンター西明石) ピアサポーター:小宮真由子氏 田中秀紀氏
13:00~ 14:30	「精神疾患の基礎理解」	前田憲作 先生(医師・明石土山病院)
14:40~ 16:30	パネルディスカッション 「精神保健福祉相談の基本」	河野康政(PSW・明石市障害福祉課) 塩入雄佑(PSW・明石市健康推進課 あかし保健所) 佐川芳郎(PSW・関西青少年サナトリウム) 榎本純子(PSW・明石土山病院) 蒔野成明(PSW・かもめクリニック) 足立麻子(PSW・明石市基幹相談支援センター)
16:45	閉会	

FAX：078-924-9134（※送信票不要）

平成30年度障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修

## 参加申込書

お 名 前	
連 絡 先	
所 属 先	

◇申込期限 平成30年2月13日（水）

### 【注意事項】

- ・受講受付のご連絡は致しません。
- ・申し込み多数により、お断りする場合のみご連絡致します。

### 【お問い合わせ・送信先】

明石市基幹相談支援センター（担当：足立・後藤）

（社会福祉法人 明石市社会福祉協議会）

明石市貴崎1丁目5番13号（〒673-0037）

（明石市立総合福祉センター内）

電話：078-924-9155 FAX：078-924-9134

## 平成30年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 レポート Vol.31 平成31年3月28日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎 1 丁目 5 番 13 号（明石市立総合福祉センター 1 階）

電話番号 078-924-9155 ファクシミリ 078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

早いもので今年度も残りわずかとなりました。

今号では、2月20日（水）に開催致しました、平成30年度 障害福祉サービス等従事者向け精神保健福祉研修について、松井さん（あかし保健所 健康推進課）にご報告頂きます。

## 講義1 「当事者理解～わたしたちの元気な生き方」

今回は、精神障害の当事者でピアサポーターの小宮真由子さん 田中秀紀氏さんに登壇していただき、リカバリーストーリーを語っていただきました。「自己表現が苦手だけどチャレンジします」と、ご自身に起きた困難な経験と回復した今を自身の言葉で語られる姿に、受講者も研修スタッフもすっかり聞き入りました。



プログラムの後半では「WRAP（元気回復行動プラン）」について紹介していただきました。WRAPとは、Wellness Recovery Action Planの頭文字をとった名称で、アメリカの精神障害の当事者が開発したプログラムです。お2人にご自身のWRAPの内容を語っていただいた後、支援者へのメッセージも伝えていただきました。最後には質疑応答の時間を設け、受講者からお2人への質問に答えていただき、終始とても和やかな雰囲気の中、当事者の方への理解が深まる時間になったと思います。

## 受講者の感想（抜粋）

- ・ピアサポーターさんのお話を聞いて、ある日突然自分の身におきたことを聞き、誰にでもおこりうる疾患なのだと思った。周りの人のちょっとした声掛けや心づかいが精神疾患を持つ方の助けになると知った。
- ・お二人の当事者のリカバリーストーリーでは辛い実体験をお話いただき、またWRAPをつかって自分自身と向き合う姿にとっても感動しました。
- ・WRAPの『自分でつくる自分のトリセツ』が、わかりやすかったです。
- ・当事者の方が色々な方法でしんどさを乗り越えておられる話を聞き、現在勤めている施設の利用者の方にも色々な提案をさせて頂けると思った。

## 講義2 「精神疾患の基礎理解」

今回は、明石土山病院の前田憲作先生にご登壇いただき、主に統合失調症とうつ病、双極性障害についてお話いただきました。病気の鑑別診断の視点や病因、症状、治療や病気の経過、予後に至るまで非

常に詳しいお話でした。投薬治療の際に最も注意を要する副作用（悪性症候群）については、対象者の身近にいる支援者として気をつけて観察し、主治医への報告や支援者間で共有する必要があると感じました。

### 受講者の感想（抜粋）

- ・疾患についてとても分かりやすく説明して下さったと思います。
- ・うつ病の人と接する事があるが、症状を理解した上で接する事で、注意点が違うと思った。
- ・普段、利用者の方と接する中で、これで良いのだろうかと思っていたことも、改めて症状の説明等を聞き、利用者の方の理解にとっても役に立てることが出来るお話でした。
- ・自分が普段使っている言葉でも間違っている事があると解った。

### 講義3 「精神保健福祉相談の基本」

平成26年から始めている当研修で初の試みとなる、支援者によるパネルディスカッションを実施しました。対象者やその家族から怒られたり拒否されたり、あるいは頻回な電話がある、主治医や他の関係機関との連携の難しさ等、支援者の多くが経験すると思われることをテーマにしました。経験豊富な精神保健福祉士がパネリストとして登壇し、さまざまな形で不安を表出する対象者をどのように捉えて支援しているか、心構えと具体的な対応についてお話をしました。プログラムの後半は、パネリストの意見を受け、席が近い受講者同士でグループになり、意見交換をしました。最後にコーディネーターより、障害の有無に関わらず、対象者へ尊敬をもって接すること、マイナス探しをしない態度が大切である等の話がありよりよい支援のために必要な姿勢や視点について、改めて学ぶことができました。



### 受講者の感想（抜粋）

- ・支援者側の目線でたくさんの例を出していただき、とても分かりやすかったです。今後の支援に役立てたいと思います。
- ・「価値観のおしつけにならないように」という当たり前に思える事でも、本当は自分の価値観で物事を片づけようとしていたのかなと考えさせられました。色々なお話が聞けてとてもよかったです。
- ・出された事例が普段考えたり、対応する時に感じたりすることがたくさんあり、とても参考になりました。
- ・支援している中、悩んでいた事がいくつかありましたが、心のモヤモヤが少しスッキリした気がしました。

本研修は、精神障害者支援体制加算における「精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修」として、兵庫県に認可を受けて実施し、31名の受講者に修了証明書を発行致しました。今後も精神障害のある人へのより良い支援のために、皆様と学ぶ機会をつくって行きたいと思います。

## ワーキング② 「ヘルパーのつどい」

設置目的（明石市第4次障害者計画を参照）

### 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実

#### (1) 居宅介護等の訪問系サービスの充実

・障害のある人の安定した在宅生活を支援するため、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護などの訪問系サービスの充実を図ります。

#### (8) サービス事業所への支援

・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。

### 具体的活動

- ・介護技術リスクマネジメント研修の開催
- ・居宅介護（身体介護・家事援助・通院等介助）、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援のサービス提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約

### コアメンバー

ファミリーケア友愛	小林 律子
ケア21 明石	角野 晶子
博由園	栗原 祥子
あじさいのもり明石	原 泰久
ふらふ	倉八 宗仁
ホームヘルプステーション西神戸	中野 みちる
うみのほしウエスト	中田 昌宏
土屋訪問看護ステーション	吉田 政弘

### 活動実績

日時	内容
7月26日（木）	ヘルパーのつどい拡大会議の企画検討
10月11日（木）	ヘルパーのつどい拡大会議の企画検討
10月23日（木）	ヘルパーのつどい拡大会議（第1回）
1月24日（木）	ヘルパーの離職要因の分析（ハラスメント事例の整理）
3月28日（木）	次年度計画検討

平成 30 年 9 月 日

居宅介護事業所 管理者 様

明 石 市 障 害 福 祉 課  
明石市基幹相談支援センター  
兼障害者虐待防止センター

### 平成 30 年度 「ヘルパーのつどい拡大会議」の開催について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より明石市地域自立支援協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

明石市地域自立支援協議会 暮らし部会のワーキンググループ「ヘルパーのつどい」では、平成 27 年度より、障害のある人へサービス提供を行っている居宅介護事業所の管理者等が集まり、支援上の課題等の検討や、ホームヘルパーを対象とした研修を実施して参りました。この度、市内で勤務するホームヘルパーの皆様と、交流の機会を兼ねて、日頃の業務での悩みや疑問などを聴かせて頂きたく、「ヘルパーのつどい拡大会議」を開催することに致しました。

皆様におかれましては、大変ご多忙のことと存じますが、ぜひご参加下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 記

1. 名 称 ヘルパーのつどい拡大会議
2. 対 象 明石市内にある障害福祉サービスを実施している居宅介護事業所に勤務するホームヘルパー
3. 開催日時 平成 30 年 10 月 23 日 (火) 13 時 30 分～15 時 00 分 ※途中退席も可
4. 場 所 あかし保健所 1F 展示場
5. 注意事項
  - ・参加にあたり、会費等は徴収致しません。
  - ・1 事業所あたり 2 名まで申し込み可能です。

## ① 利用者への対応に困っている

- ・言うことがコロコロ変わり、振り回され、約束事も無かったことになってしまう
- ・訪問時に留守の時がある
- ・訪問時に寝ていて出てこられず、支援が思うように出来ない
- ・ドタキャンが続く人への派遣をどうしたらよいか
- ・どこまで親しくなって良いのか（利用者との距離感）
- ・ヘルパー個人の事で訪問を拒否される。はっきりした理由が無く、いわゆる相性？
- ・年配のヘルパーは嫌、若いヘルパーが良いと言われる
- ・障害者同士の恋愛相談を受けることがあり返答に困る
- ・利用者からのセクハラ発言に困る
- ・利用者からの言葉の暴力を受けた
- ・サービス範囲外（自費）と説明しても支払いに応じない
- ・上限金額の説明をしているが集金時に支払ってくれない

## ② 業務内容や業務範囲について疑問がある

- ・重度訪問介護の1回あたりのサービス提供時間は長いか短い？
- ・利用者以外の家族の調理をしているか？
- ・洗濯物が家族の分も含まれており多すぎる
- ・介護保険ほど業務内容の縛りがなく断りづらい
- ・介護保険と障害福祉サービスのグレーゾーンの線引きは？
- ・家事援助の時間が長い。介護保険移行時にギャップが生じる

## ③ 障害福祉サービスならではの難しさがある

- ・精神障害の人は怖いという理由で、ヘルパーが1人で訪問出来ない
- ・精神障害の人に対して抵抗感のあるヘルパーへのフォローをしているか？
- ・統合失調症という同じ病名でも、人それぞれなので、接し方が難しい
- ・3障害ごとに、対応に気をつけていることがあるか？
- ・ヘルパーが障害について学ぶ機会がない
- ・ヘルパーのスキルアップの方法、取り組みは？
- ・ケアマネージャーと相談支援専門員との関わり方の違いがわからない

## ヘルパーの離職要因の一つ（報告されたハラスメント事例）

- ・当日キャンセル等の急な予定変更を繰り返し、対応できないと文句を言われる。（精神）
- ・夜中に10件近く要望をメールで送ってくる。（精神）
- ・ヘルパーの変更を求められる、そのうち代わりのヘルパーがいなくなる。（精神）
- ・介助中に後頭部を叩かれたり、腕をひねられた。（精神、身体重複）
- ・物を投げて「帰れ」と言われた。（精神、身体重複）
- ・調理をしていたら後ろから利用者に触られた。注意すると利用者の態度が豹変し、ヘルパーを選び好みするようになった。その後、意にそぐわないヘルパーが訪問すると「不法侵入」など言われるため、障害福祉課に相談のうえ、契約解除に至った。（身体）
- ・「抱きついていいですか」と言われた。（身体）
- ・軟膏等塗布する際に股間にも塗って欲しいと言われた。（身体）
- ・家族が掃除について細かく指示を出してくる。（身体）
- ・女性のヘルパーに「脱げ」と言った利用者がいた。即契約を打ち切った。（身体）
- ・どついてきたり、物を投げられた。（身体）
- ・女性ヘルパーが調理をしていたら、斜め後ろから男性利用者が胸を覗きこんできた（身体）
- ・ヘルパーが物を盗んだと言われて、警察を呼んだ。警察からは市に対応を求めると市から指示を受けて、市（介護保険課）に報告を求めた。すると市から始末書を書く様に言われて納得がいかなかった。
- ・興奮しているので暗に射精介助をするように求められた。
- ・入浴介助中に腕をひねりあげられるなど暴力を受けた。

## ワーキング③ 「すまいの会」

設置目的（明石市第4次障害者計画を参照）

### 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実

#### (4)住まいの場の確保、居住の支援

・家族の高齢化により在宅では必要な支援が得られない、家族から独立して生活したいなど、障害のある人のそれぞれのニーズに即した地域生活を支援していくため、グループホーム等の「住まいの場」の充実を図ります。

#### (8)サービス事業所への支援

・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。

### 具体的活動

・施設入所支援、共同生活援助、宿泊型自立訓練等の居住系サービスの提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約

### コアメンバー

木の根学園	宮崎 泰生
博由園	賀部 大輔
みどり寮	松尾 亜矢
関西青少年サナトリウム	河石 洋美
あーちほーむ	米 和利
こぐまホーム	溶田 洋子
ソーシャルサポートセンターひょうご	青木 遥
やまゆりの家	吉田 徹

### 活動実績

日 時	内 容
1月11日（金）	・居住系サービスにおける現状の課題集約 ・入所施設からの地域移行における現状と課題の整理 ・グループホームからの地域移行における現状と課題の整理
3月15日（金）	・市内グループホームへのアンケート調査票の検討

すまいの会 課題抽出シート

支援関係	日々変則勤務のなか、職員全体で集まる機会がなく情報共有が難しい。	他院からの紹介事例で満足な情報収集ができず、入所後に対応に困るケースが多々ある。				
利用者関係	重度高齢化が顕著。					
職員関係	ワーカ-2名、世話人11名で支援。意識・支援力にギャップがある。	人材不足。求人を出してもなかなか応募がない。	入れ替わりが激しいため、支援技術の引き継ぎ、専門性の向上が難しい。			
設備関係	県住のGHでは、水回りやトイレ等が未回収のため不便。経済的に改装は困難。					
地域・環境関係	身体、重症心身のニーズが高いが、対応可能な事業所が少なく受け入れしきれしていない。	近隣との連携(自治会等)それぞれ地域性によって異なる対応・協力が求められる。				
法律その他	有期限で入寮するが、移行先について本人と家族の意向が異なる。(家族は単身生活を拒否)	GHでは日中加算がないため、通院同行や体調不良者対応がそのまま負担となる。	災害時の緊急避難場所について、一般の方と同じ場所での避難生活を送れるのか？			

施設や事業所特有の困り事や「あるある・・・」など、同じ地域で暮らしを支える仲間として色んなことを共有していきましよう！

令和元年〇月〇日

市内居住系サービス事業所 各位

明石市地域自立支援協議会 暮らし部会  
ワーキンググループ すまいの会

## 「地域移行に関するアンケート調査」についてのお願い

平素より、明石市地域自立支援協議会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当協議会の暮らし部会が設置するワーキンググループ「すまいの会」では居住系サービスの事業所が集まり、障害のある方の一人ひとりのニーズに即した暮らしを支援していくために情報共有や検討を行っています。

これまで市内のグループホーム等の居住系サービスから地域移行した件数や、地域移行にかかる支援を行ううえでの課題、現在の入居者の地域移行に関するニーズ等、実際の状況を把握するような調査の機会がありませんでした。

このたび、皆様からの回答を基に今後のワーキング活動の参考とさせて頂きたいと考えていますので、お手数をお掛けしますが、アンケート調査へのご協力を宜しくお願い致します。

なお、調査の回答内容は厳重に取り扱い、調査結果は統計処理したうえで公開し、個別票を公開することはありません。

### 【 お問い合わせ先 】

明石市基幹相談支援センター（事務局担当：足立・後藤）  
明石市貴崎1丁目5番13号  
電話 078-924-9155 / ファクシミリ 078-924-9134

【令和元年〇月〇日現在の状況でお答え下さい】

このアンケートは、明石市地域自立支援協議会くらし部会が主体となり、明石市内及び近接市に所在するグループホームの実態を明らかにするための調査です。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

グループホーム名			
住 所			
連 絡 先			
記 入 者			
入居定員	名	〇月〇日現在の入居者数	名

1. 事業所に関すること

(1)事業形態

- 介護サービス包括型       外部サービス利用型       日中サービス支援型

(2)住居の形態

- 一戸建       集合住宅       UR       公営住宅       その他（社会福祉施設等）

(3)職員の配置時間

	平均的な平日	平均的な休日
サービス管理責任者	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
世話人	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
生活支援員	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇	〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

(4)夜間の支援体制（複数回答可）

- 夜勤       宿直       見回り       夜間連絡       警備会社       対応無

(5)食事の提供頻度

	朝食提供	昼食提供	夕食提供
平日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
土	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
祝日	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(6)諸経費（月額）

家賃（補助無し）	光熱水費	食材料費	日用品費
円	<input type="checkbox"/> 定額      円	<input type="checkbox"/> 定額      円	<input type="checkbox"/> 定額      円
	<input type="checkbox"/> 実費請求	<input type="checkbox"/> 実費請求	<input type="checkbox"/> 実費請求

その他諸経費（内訳と費用）

例) 自治会費（月額 200 円）など
---------------------

【令和元年〇月〇日現在の状況でお答え下さい】

2. 入居者に関すること

(1)主たる障害別内訳

該当箇所には人数を記載してください。

①身体障害	男性							女性						
	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥
20歳未満														
20歳～29歳														
30歳～39歳														
40歳～49歳														
50歳～59歳														
60歳～69歳														
70歳以上														

②知的障害	男性							女性						
	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥
20歳未満														
20歳～29歳														
30歳～39歳														
40歳～49歳														
50歳～59歳														
60歳～69歳														
70歳以上														

③精神障害	男性							女性						
	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥	非 該 当	区 分 ①	区 分 ②	区 分 ③	区 分 ④	区 分 ⑤	区 分 ⑥
20歳未満														
20歳～29歳														
30歳～39歳														
40歳～49歳														
50歳～59歳														
60歳～69歳														
70歳以上														

【令和元年〇月〇日現在の状況でお答え下さい】

④発達障害	男性							女性						
	非該当	区分①	区分②	区分③	区分④	区分⑤	区分⑥	非該当	区分①	区分②	区分③	区分④	区分⑤	区分⑥
20歳未満														
20歳～29歳														
30歳～39歳														
40歳～49歳														
50歳～59歳														
60歳～69歳														
70歳以上														

⑤難病	男性							女性						
	非該当	区分①	区分②	区分③	区分④	区分⑤	区分⑥	非該当	区分①	区分②	区分③	区分④	区分⑤	区分⑥
20歳未満														
20歳～29歳														
30歳～39歳														
40歳～49歳														
50歳～59歳														
60歳～69歳														
70歳以上														

(2) 決まって通う日中活動先

人数	一般就労（障害者雇用含む）	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	自立訓練（生活訓練）	自立訓練（機能訓練）	生活介護	地域活動支援センター	医療機関のデイケア	なし	※その他

※その他の具体的な内容（自由記述）

【令和元年〇月〇日現在の状況でお答え下さい】

(3)入居前の住居等

	自宅（家族同居）	自宅（独居）	障害者支援施設	障害児入所施設	他のグループホーム	その他福祉施設	精神科病院	一般科病院	※その他
人数									

※その他の具体的な内容（自由記述）

(4)入居目的（複数回答可）

注）「単身生活への訓練」については、サービス等利用計画や個別支援計画に単身生活を希望する旨が記載されている入居者数を記載してください。

	終の棲家として	※ 単身生活への訓練	居所喪失	同居家族との軋轢	被虐待	本人の能力低下	家族の介護力低下	※その他
人数								

※その他の具体的な内容（自由記述）

(5)単身生活へ移行しない理由（複数回答可）

	本人が希望しない	ない 家族・親族が希望し	十分な収入がない	在宅生活を支えるサービスが不足している	退居に向けた支援を行う余力がない	退居に向けた支援のノウハウがない	※その他
人数							

※その他の具体的な内容（自由記述）

(6)過去3年間の退居者数 〇〇名

(7)退去理由

	※单身生活への移行	家庭復帰	障害者支援施設への入所	他のグループホームへの転居	高齢者施設への入所	その他社会福祉施設への入所	精神科病院への入院	一般科病院への入院	※契約違反を理由とした契約解除	※支援困難を理由とした契約解除	死亡	その他
人数												

※单身生活への移行に要した支援内容（自由記述）

※契約違反の具体的な内容（自由記述）

※支援困難の具体的な内容（自由記述）

質問は以上となります。調査にご協力いただき誠にありがとうございました。  
 ご回答頂いた調査票を同封の返信用封筒に入れてご返送下さいますようお願い申し上げます。  
 恐れ入りますが、**令和元年〇月〇日**までに投函して頂ければ幸いに存じます。

## ワーキング④ 「生活介護事業者連絡会」

設置目的（明石市第4次障害者計画を参照）

### 2-1 地域生活を支えるために必要なサービスの確保・充実

#### (3) 日中活動の場の確保と支援

・障害のある人が日中活動を利用して地域での社会参加ができるよう、様々なニーズに応じた日中活動の場の拡充を図ります。特に医療的ケアや常時介護が必要な重度障害のある人及びその家族が安心して生活できるよう、支援の充実に努めます。

#### (8) サービス事業所への支援

・障害のある人への支援に関する専門的技術を習得するための研修の実施を支援します。

### 具体的活動

- ・生活介護のサービス提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約
- ・作業療法士派遣パイロット事業の実施

### コアメンバー

にじの空	山崎 信吾
こぐまくらぶ	佐々木 淳子
サポートセンター翔	福本 伸雄
M'sケアサービス	浦上 公子
オーク	岸上 暁代
オープンゴール	玉木 伸宣
神戸学院大学（作業療法学科）	塚原 正志 森川 孝子

### 活動実績

日時	内容
7月20日（金）	作業療法士パイロット派遣事業報告（こぐまくらぶ）
10月31日（水）	作業療法士パイロット派遣事業計画検討（サポートセンター翔） 作業療法士によるレクリエーション指導
2月14日（木）	作業療法士パイロット派遣事業計画検討（サポートセンター翔）

## 生活介護事業者連絡会

### 1. 生活介護事業のサービス提供を通じて得られた課題の抽出と意見集約

#### 1) 事業運営上の課題

- ・生活介護のサービスは、就労系サービスと比較すると達成度が曖昧で分かりにくい。
- ・サービス内容や質の課題よりも、サービス提供に絶対不可欠な担い手の確保と育成が深刻な問題である。
- ・現業職員の支援・介護等技術の差異が著しい。
- ・入浴介助や医療的ケアのニーズが高いが、看護スタッフの体制などに限界があり、十分応じきれしていない。
- ・移動販売、共同募金、地区社協、まちづくり協議会などイベント要素のある活動では地域と交流は図れている。しかし、日常における近隣との関係性は希薄であり、暗黙の了解で干渉し合わない状態にある。
- ・地域住民とは、自然に挨拶が出来たり、世間話が出来る間柄であると思うが、それ以上でもそれ以下でもない。
- ・自治会に加入し、夏祭り、年 2 回の溝そうじには参加しており、夏祭りでは、作業で作成した物を販売し、施設内容を紹介しているが、地域住民に周知や認知されているかは不明である。

#### 2) 利用者支援の課題

- ・日曜日も開所してほしいといった要望や、共稼ぎ世帯の増加により、利用時間の延長を希望する利用者(家族)が増えている。
- ・現在の児童通所サービス利用状況を俯瞰すると「単なる預かりレベルのニーズ」にまで支給量を出しているような印象を受ける。児童通所サービスを潤沢に利用していた層が、成人期になる頃には、通所施設の終業時間後の過ごし方、サービスのあり方が更に課題化することが予想される。
- ・重度者を受け入れていることもあり、利用者の高齢化、保護者の高齢化に伴い寝食の場をどうするのかという課題を身近に感じている。
- ・重い障害のある人でも参加しやすいプログラムの開発が必要ではないか。
- ・個々で工夫していることが正しいのか、多分よくなっているだろうという曖昧な評価で進めているので専門家の意見を聴きたい。事業所への巡回指導などに来てもらえないか。
- ・他県の自立支援協議会では、障害のある人でも安心して利用できる店舗の開拓等をしていくと聞く。明石市内でも重度の障害のある人でも利用しやすい店舗を拡充していくような取り組みができないか。

( 白 紙 )

明石市地域自立支援協議会 暮らし部会  
生活介護事業者連絡会

～こぐまくらぶに対する作業療法士介入報告書～

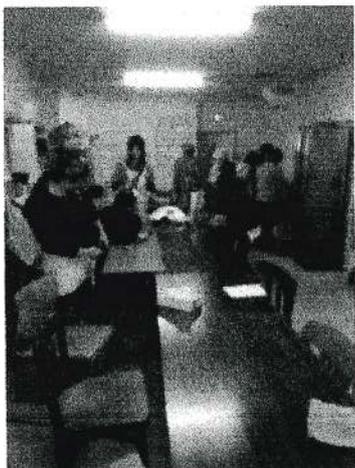
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

塚原 正志 森川 孝子

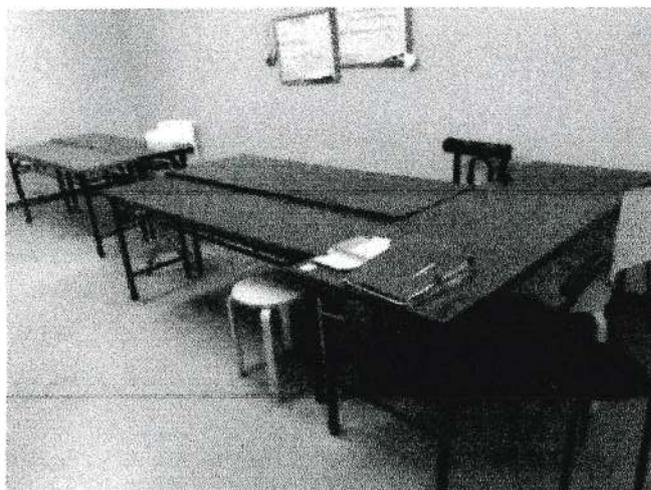
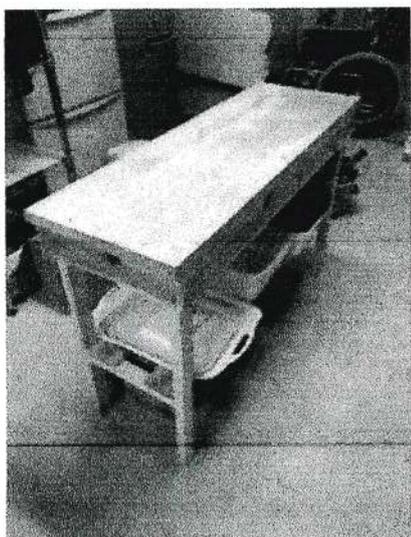
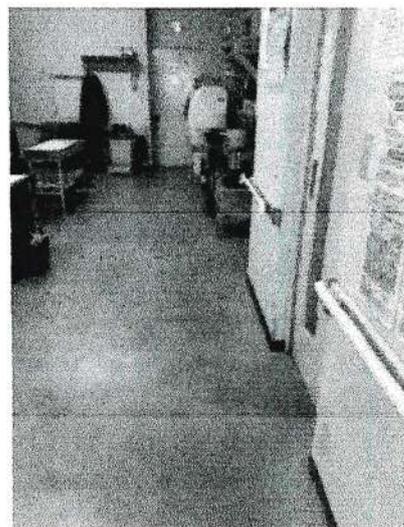
2018年7月20日(金)

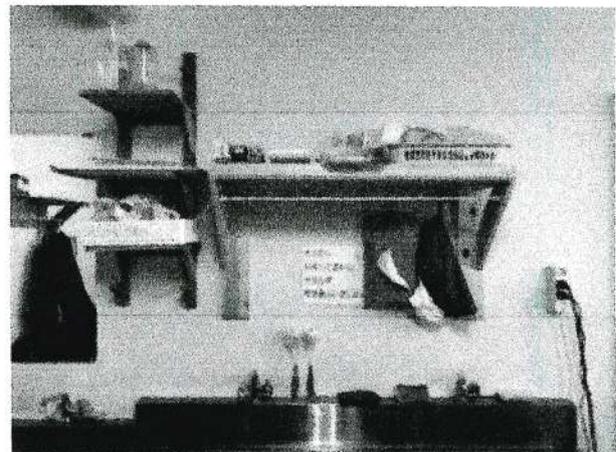
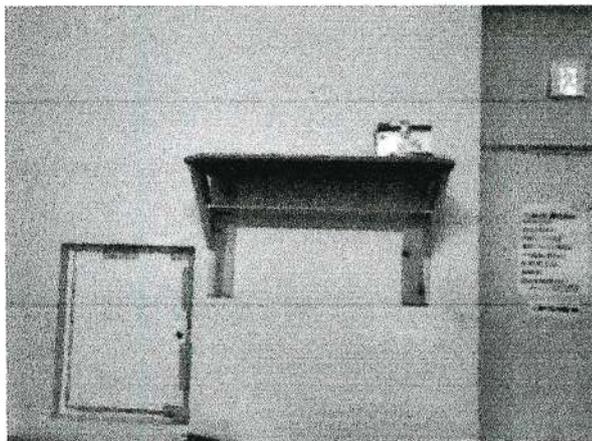
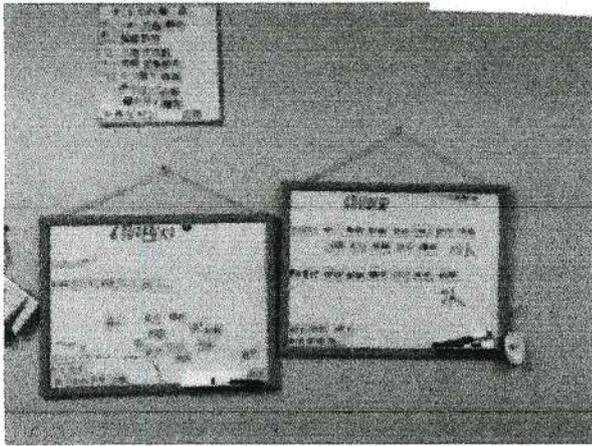
最初に、作業療法士2名が、事業所を訪問させて頂き、作業療法士の視点で気になる点をピックアップし、2回目の訪問で、コンサルタント用紙を元に、指摘内容をスタッフに伝達。それを受けてスタッフ間で検討して頂き、以下のような修正が行われた。

【介入前】



【介入後】





### 【意見】

今回、作業療法士は、利用者目線で、「安全・安心」について、指摘させて頂きました。その際、修正案を提示したりなどの指導でなく、あくまでも指摘にとどめました。それは、現状もスタッフの中でなにか意味があって作られた環境であることを承知しているからです。ただただ修正案を提示するのは、スタッフの、事業所の尊厳を傷つけてしまうことになります。

作業療法士の指摘後、スタッフで検討され、その結果、修正したとのことでしたの、改めて訪問させて頂き、話し合いを持ちました。指摘した箇所がすべてに対して、手が加わる必要もなく、スタッフが指摘項目から優先順位を決め、修正できると判断したものから手を加えれば良いと考えておりました。そのプロセスでスタッフ間によるコミュニケーションがとれれば一つの成果と考えておりました。

その結果、上記写真で示す通りに、当初の目的の「安全・安心」はかなりの割合で達成できたのではないのでしょうか。

さらに、この関わりによって、作業療法士が指摘した以外のことにも話が及び、棚を作るなどのスタッフ側からの提案もあり、作業療法士が一つの触媒となり、スタッフのコミュニケーションのさらなる向上のきっかけ作りにもなったように思いました。

このように作業療法士が関わることにより、環境の改善、スタッフの自己覚知などに少なからず効果・成果を出せるのではないかと思います。

今後も作業療法士として、くらし部会生活介護事業所の方たちと連携を取って、利用者により安全・安心できるサービスが提供できる環境作りに寄与できればと思います。

日時：2018 年 2 月 6 日

訪問者： 塚原、森川

施設名：こぐまくらぶ 明石

事業形態：生活介護事業、就労継続支援B型

相談者（職種）・相談内容	作業療法士より
<p>・環境について</p>	<p><u>全体的に</u> 小さい部屋がいくつかあってよいと思うが、使い分けはできているか？</p> <p>利用者スペースのテーブルやスタッフ用の事務機の使い分けはどのようにしているのか？</p> <p>机上であるものが利用者の行動（移動や身体に触れて）の邪魔になっていないか？</p> <p><u>棚・物品の整理について</u> 使用頻度などに応じて物品の置き場所が決まっているか？</p> <p>ラベリングなども必要ではないか？</p> <p>使用していない物品の置き場所はどうか？</p> <p>利用者が自分で使えるもの、スタッフが使うものの置き場所などの区別ができているか？</p> <p><u>掲示物について</u> スタッフ用の掲示物が目立つので、利用者に必要な情報を掲示した方がいいのではないか？</p>
<p>・感染症について （インフルエンザ等）</p>	<p><u>全体を通して</u> 水道からペーパータオルまでの距離はどうか？</p> <p>手指のアルコール消毒などはしていないのか？</p>

	<p>手洗い、うがいはどのタイミングで行っているか？</p> <p>食品を取り扱う人の手洗い、消毒などはどうしているか？</p> <p>場合によってはマスクの着用なども検討しているか？</p>
<p>・ 障害の種類が混在していることについて</p>	<p>施設の方針、ということで対象者の障害に合わせて物理的環境も対応されているとのことでしたので、今後も相談にのることができればと思います。</p>
<p>今後の方針など</p> <p>スタッフの方々が利用者の個性や特性をとらえて対応されていてよいと感じました。上記の点についてスタッフ間で共有していただき、ご検討いただければと思います。</p> <p>また、多忙な業務の中だとはおもいますが、スタッフのミーティング（朝）があった方が一日の流れができてよいのではと思いました。</p> <p>車いすから歩行に向けての介助、姿勢について、聴覚過敏の方については、時間の都合もあり、今回特にコメントしておりません。</p> <p>今回は外出の利用者も多かったとのことでしたので、次回は人数が多い時の様子も見せていただきたく思います。</p> <p style="text-align: right;">次回の予定      月      日・ 終了</p>	

**面談記録用紙**

作成日：\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日 作成者：\_\_\_\_\_

実施期日：\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日( ) 時\_\_\_\_分～ 時\_\_\_\_分

実施場所：\_\_\_\_\_ 相談者：\_\_\_\_\_

対応キャリアコンサルタント名：\_\_\_\_\_

- ・面談にいたる経緯
- ・相談者の主な目的は何か
- ・相談者はどのような人か（態度、印象、可能な範囲内の属性）

【相談内容と対応】（重要部分は逐語にて）

【キャリアコンサルタントの見立て】

【相談内容と対応】（重要部分は逐語にて）

【キャリアコンサルタントの見立て】

(紙面不足の場合は任意様式で追加可)

1. 相談者が最も強く訴えたこと・キャリアコンサルタントの見立て

～相談者が訴えた主要な問題～

～上記以外で感じた相談者の問題・課題～

上記問題への対処 (何を目標に、どういう方策で進めたか)

(面談の) 目標

方策

2. 相談者の納得 (理解) の程度 (推定)

3. 特記事項 (関係構築はどうだったか)

( 白 紙 )

## 生活介護連絡会のワーキング

作業療法士様から事業所の改善について

こぐまくらぶ明石事業所

2月6日に神戸学院大学の塚原、森川先生に來所して頂き、明石事業所の環境面、衛生面について、作業療法士から見た事業所の改善点をレクチャーして頂きました。

### まずはこぐまくらぶの明石の環境面については

#### ・全体的に見て

部屋の使い分けはできているのか？利用者のスペース、利用者さんのテーブル、スタッフの事務機の使い分けはどのようにしているのか？  
作業所内の机上の物が邪魔になっていないのか？等

#### ・棚、物品の整理について

使用頻度等に応じて物品の置き場所が決まっているのか？  
ラベリング等も必要ではないか？  
使用していない物品の置き場所はどうか？  
利用者が自分で使えるもの、スタッフが使う物の置き場所などの区別は出来ているのか？

#### ・掲示物について

スタッフ用の掲示物が目立つので、利用者に必要な情報を掲示したほうがよいのではないか？

と言った質問が出ました。

### 衛生面 感染症について（インフルエンザ、ノロウイルス等）

#### ・全体的に見て

水道からペーパータオルまでの距離はどうか？  
手や指の消毒等はしていないのか？  
手洗い、うがい等はどのタイミングで行っているのか？  
マスクの着用は検討しているのか？

## 障害の種類が混在していることについて

施設の方針ということで対象者の障害に合わせて物理的環境も対応されているとのことでしたので、今後も相談に乗ることが出来ればと思いますとのこと。

ご指摘された上記の改善点をスタッフ間で共有、検討した結果、最初に取り組んだ改善点は、就労Bで掲示板を利用者目線の物に変える取り組み、車椅子の利用者さん目線で、広い動線の確保を実践しました。内容的には就労Bの利用者さんの予定表（2日分）、日課表、社会人としてのマナー10項目等を自分たちで作ることを始めました。又、車椅子の利用者さんの動線上にある机をコンパクトなものに変え、スペースを広く取り、通りやすく又、無理なく移動出来るように変更しました。

その後は、手洗い場にスタッフ手作りのペーパーホルダーやティッシュケースホルダーを手の届く位置に配置し、作業台、物品置き棚も手の届く位置に配置し、使い易く、衛生上の問題もクリアしました。先日の来所持にも好評価なコメントを頂きました。

今後は、利用者さんの分かりやすいラベリングの徹底、生活介護でも利用者さんの分かりやすい掲示板の作成やスタッフと利用者さんの机の使い分け、スタッフと利用者さんの使う物の置き場所の区別等に取り組んで行き、今以上に安全で快適に過ごせる事業所を作って行きたいと思います。